

令和 7 年度 第 9 回

# 印西市総合教育会議

## 会議録

令和 7 年 1 月 30 日

## 令和7年度 第9回 印西市総合教育会議 会議録

日時：令和7年1月30日(日)

14時00分～16時25分

場所：印西市役所 農業委員会会議室

### 1. 開会

### 2. 市長あいさつ

### 3. 議題

- (1) これまでの意見交換の報告について
- (2) 教職員アンケートの結果について
- (3) 印西市教育ビジョン（素案）について
- (4) ディスカッション（各論についての意見・質問等）

### 4. 閉会

#### 出席者(6名)

印西市長 藤代 健吾

印西市教育委員会 教育長 渡邊 義規

印西市教育委員会 教育長職務代理者 豊田 光弘

印西市教育委員会 委員 長尾 香奈

印西市教育委員会 委員 屋敷 育

印西市教育委員会 委員 増田 洋子

#### 市長部局

副市長 野崎 崇正

企画財政部長 米井 雅俊

企画財政部企画政策課長 武藤 誠

企画財政部企画政策課政策推進係長 藤代 悠子

#### 教育部

教育委員会教育部長 伊藤 章

教育委員会教育部教育総務課長 鈴木 圭一

教育委員会教育部教育総務課課長補佐 木崎 和博

教育委員会教育部教育総務課総務係長 中野 竜一

教育委員会教育部学務課長 加藤 知巳

教育委員会教育部指導課長 岡田 光靖

教育委員会教育部指導課副参事 深澤 淳一

教育委員会教育部教育DX専門官 松本 博幸

教育委員会教育部教育センター所長 斎藤 瞳雄

教育委員会教育部生涯学習課長 中嶋 広

教育委員会教育部学校給食課長 出山 健生

(午後2時00分)

企画政策課長  
(進行)

それでは、ただいまから令和7年度第9回印西市総合教育会議を開会いたします。

会議につきましては、印西市総合教育会議設置要綱第4条の規定により、藤代市長に議長をお願いいたします。

藤代市長  
(議長)

皆様こんにちは。

今日は週末の本来であればお休みの中で、教育委員の皆様もまた職員の皆様、教育長もご出席ご参加をいただきましてありがとうございます。

平日にやるかという話もあったのですけれども、今回一番大きなところが教育ビジョンの素案というところで、これまでの議論の集大成でありますけれども、こちらの素案について、本日は議論するということで、できれば学校の先生方も見やすい時期がいいのではないか、というご提案を事務局の方からもいただきまして、であれば週末にやろうということで、この日曜日の午後の時間に開催させていただくということになりました。

今日ですけれども、3つ目の議題として、この教育ビジョン素案についてというところでありますけれども、その手前のところでこれまでいろいろな有識者の皆様にお話を聞いてきましたけれども、その裏側で、1つには、学校の現場にいるこどもたちですよね。

こどもたちが、まさにこの教育の当事者でありますので、中学校のこどもたちであるとか、あとは先生方ですね、そしてタウンミーティングという形で、お父さんお母さんも交えて、様々なお話を伺ってきました。

その内容について、まず報告をさせていただきたいことが1つと、2つ目として、今回、すべての市内の教職員の皆様を対象にしてアンケートも取らせていただきまして、本当に多くの皆様にご回答いただいたのですけれども、かなりいろいろな示唆がありましたので、その内容についてもご共有をさせていただきたいと思っております。

今日はこの3点が議題になります。

それでは、まず1点目として、これまでの意見交換の報告について、ということで事務局の方からご説明をいただければと思います。

企画政策課長

はい。企画政策課の武藤でございます。

私からは、これまで市長と教育長を中心実施して参りました、意見交換の内容についてご説明をさせていただきます。

印西市教育ビジョンの策定にあたりましては、学校現場で日々こどもたちに向き合う教職員の皆様、またこれから未来を担うこどもたち、家庭や地域でこどもたちを支えていただいております保護者の方々の声をビジョンに反映させるために、①として教職員との対話会、②として中学生との給食、また放課後ミーティング、③として、小学生と保護者を対象とした「ロボッチャで学ぶ私たちの町の未来こどもタウンミーティング」をそれぞれ実施いたしまして、皆様それぞれの立場から、日頃課題として感じていること、これから教育について等々、率直なご意見をお聞かせいた

だきました。

この後、議題の3でも説明をいたしますけれども、印西市教育ビジョンでは、3つのプロジェクトを柱として、各施策の展開を考えておりますので、プロジェクトに関連をさせて報告をさせていただきます。

初めに、教職員との対話会でございます。

8月26日、小中学校で活躍されております、9名の先生方とこどもたちの学びを充実させるために、先生方がより働きやすく、力を発揮できる環境や体制を作るためにはどうすればよいかをテーマとし対話会を実施いたしました。

いただいたご意見は大きく、4つに整理をさせていただきました。

1つ目は、教員不足と人員体制についてでございます。

スクールサポートスタッフの活用についての課題や教員のサポート体制として、担任を持たない教員の配置を求める意見がございました。

また、教員不足により、本来配置すべき教科の先生が足りずに別の教科の先生が授業を担当する免許外教員の現状につきましても課題として挙げられました。

2つ目は、負担として感じている業務についてでございます。

「通知表の作成を1回にしたらどうか」、また、「テストの作成を業務委託してはどうか」といったご意見をいただきました。

3つ目でございますが、勤務時間の見直しについてでございます。

下校時間の見直しや、朝の勤務時間外の児童の対応、教員の働き方改革のための始業時間の見直し、勤務時間外の電話対応など、たくさんの課題・意見をいただきました。

4つ目ですが、学校の環境整備についてでございます。

体育館等への空調設置、ICT環境のさらなる充実、外国籍児童の対応として、翻訳機つきのスマートフォンの整備、老朽化による雨漏りなど施設修繕を望む声が多く上がりました。

これらのご意見のうち、空調整備など、すでに事業として進めているものもございますが、多くのご意見につきましては、市や教育委員会としましても課題として認識しております。

教育ビジョンでは、「02こども学ぶプロジェクト」に反映させるものもございますが、主に「01教職員働くプロジェクト」の各施策に反映させまして、具体的な取り組みを検討して参ります。

続きまして、こどもたちとの対話会でございます。

6月から11月にかけまして、市内9つのすべての中学校に伺い、計58名の生徒会の皆様と、一緒に給食を食べながら、また放課後の教室をお借りしまして、学校・自分・学校以外のこれから学びをテーマとしまして、対話会を実施いたしました。

こちらは給食ミーティングのスタート校、印西中学校の様子となります。

日頃生活する中で困っていることや、こうなったらいいなと思うこと、将来の夢やこれから挑戦したいことなど、たくさんのご意見を聞かせていい

ただきました。

いただいたご意見は、大きく4つに整理をさせていただきました。

1つ目は、一番多くのご意見をいただきました学校の環境整備についてでございます。

「パソコンの故障が多く、修理に時間がかかる」や、「体育館や特別教室に空調を設置して欲しい」、こういった意見につきましては、どの学校からも上がっておりました。

2つ目は、学校の生活・授業についてでございます。

「もっとグループワークを増やして、参加型の事業にして欲しい」であったり、「授業の中でその勉強が将来何に繋がるのか、何のために勉強するのかを教えてもらえると勉強が好きになる」、また、海外派遣研修の経験から「海外の生徒を招待して交流が図れたらいい」など、生徒自身の体験を踏まえたご意見を多くいただきました。

3つ目ですが、その他として、地域との交流活性化についてでございます。

お祭りやスポーツイベントなどを通じて、生徒が住んでいる地域の活性化に繋がる提案、ボランティア活動を通じて、学校と地域や高齢者等と交流が図れないか、こういった提案をしてくれる生徒の方もおりました。

4つ目ですが、その他の環境整備・制度に関する意見でございます。

学校以外の環境整備として、サッカーやラグビー専門グラウンド、また屋内のテニスコートなどの整備を望む声があります。

また、「印西市は人口規模に対して子どもの遊び場や病院が少ない」、こういったご意見もございました。

こちらは生徒の皆様が教えてくれた将来の夢や挑戦したいことをまとめたものです。

子どもたちが未来に向かって夢を持てるよう、いただいたご意見は、主に「02子ども学ぶプロジェクト」の各施策に反映し、具体的な取り組みを検討して参ります。

最後となりますが、小学生とその保護者の方との対話会です。

8月2日に36組の小学生とその保護者の方にご参加をいただきまして、印西市で今後推進していくロボットチャを活用したDX教育、こちらを体験していただきながら、印西市のこれから教育についてご意見をいただきました。

あらかじめ用意させていただいた4つのテーマについて、保護者の方からご意見を付箋に書いていただき、整理をいたしました。

1つ目でございますが、「子どもたちが生き生きと学べる学校とは」についてでございます。

「子どもたちが自発的にやりたいことを学べる環境」であったり、「いろいろな個性の子どもがいても、みんながお互いを認め合える学校」、こういったご意見がございました。

2つ目は、「子どもたちが安心して学べる学校とは」、でございます。

「学年関係なく協力して遊びや生活できる学校」や、「子どもたちが楽し

める学校」、そして「先生も楽しんで教育できる環境にして欲しい」、こういったご意見がございました。

3つ目でございますが、「地域全体で子どもの学びを支える仕組みとは」についてでございます。

意見としては、「午後4時半からは民間の力の活用」、「放課後や休日に学校施設を利用した遊びや学びの場があつたらいい」、こういった意見や

「様々な市民活動団体があるので、学校ともっと連携できたら良い」といったご意見がございました。

4つ目でございますが、「その他の教育に関すること」でございます。

「みんなで幸せになりたい」、「誰1人取り残さないと心から思える子に育って欲しい」、であったり、「不登校の子ども、学校に居場所を探している子どもをもっとサポートしていただきたい」、「今日のようなワークショップの開催機会を増やして欲しい」、こういったご意見をいただきました。

その他、たくさんのご意見をいただきしております、こどもタウンミーティングでいただいた意見の詳細につきましては、市のホームページにも掲載しております。

いただいたご意見は、これから印西市の教育に生かすとともに、教育ビジョンでは主に「02こども学ぶプロジェクト」また、「03地域ともに育むプロジェクト」の各施策に反映いたしまして、具体的な取り組みを検討して参ります。

簡単ではございますが、報告は以上でございます。

藤代市長  
(議長)

はい、ありがとうございました。

せっかくですので、意見交換に関しては、教育長にもすべて出ていただいたかと思いますので、教育長の方からも何か補足等あればお願ひします。

渡邊教育長

はい。

今、ご説明いただきましたけれども、教職員、それからこどもたち、保護者の方々を含めて、やはりいろいろな見方・考え方方がおありで、非常に貴重な意見をたくさんもらいました。

できるだけ、ワーキンググループの中でも、そういう声をしっかりと生かせるようにということで、この素案に反映させることができたのではないかなど、詳しくはこの後ご説明しますけれども、そんなふうに思っています。

藤代市長  
(議長)

ありがとうございます。

私もやはり現場に実際に伺ってみて、いろいろな方々にお話を伺うということはすごく大事だなということを思いました。

やはり先生方、どういうところで今お困りなのかとか、本来的には学びに、こどもたちに向き合って、学びをどう展開していくかということに集

中していただきたいところがなかなか、それ以外のいろいろな仕事が多いということもよくわかりましたし、あと空調の話は、先生方もこどもたちも、大体どこの学校に伺っても最初に出てくるのですよね。

それもあって、実はもともと、もう少し時間をかけて、体育館のほうに整備するという話があったのですけれども、やはり、これはなるべく早めないといけないなということで、3年生の子たちが生徒会は多かったので、「君たちのときは間に合わなくて申し訳ない」ということはお伝えをしていたのですけれども、これは頑張ってやろうということで今教育委員会の方で、なるべく向こう1、2年の間にということで検討を進めていただいているります。

また今回、親子向けの対話会は、かなり特殊なというか、ロボッチャという教材がありますけれども、ロボットでボッチャをやるということで、教育委員の皆様も何名か当日、当時の寺田委員も含めてですけれども、ご参加をいただいていて、すごくはっとさせられたのが、保護者の方々もですけれども、こどもたちはもちろんんですけど、保護者の皆様も、あとは教育委員や皆様も結構楽しそうにされていて、事前にちゃんとリハーサルをしようということで、庁内でも1回リハーサルの場を持ちましたけれども、普段結構仕事が大変で渋い顔しているうちの管理職のとある職員の方がすごい笑顔でやっているのを見て、やっぱり学びってのは本来的には楽しいものなのかなということを再認識しましたので、しっかりと、本当の意味で楽しみながら、こどもたちが学べる環境というものを作っていくことが、学びを深める意味でも大事なのかなというのを感じたところです。

本当に今回、結構、教育長も私もなかなか予定が取れないところもある中で、いろいろとやってみて本当によかったですと思いまして、職員の皆様と学校の教頭先生、校長先生も含めて、現場の皆様に大きなお力を借りた中で、行ったので、本当にご協力いただいた皆様に改めて御礼を申し上げたいと思います。

1つ目の意見交換の報告というところで、質問であるとか、またコメント等もあろうかと思いますので、委員の皆様から、ぜひ忌憚ないご意見をいただければと思います。

質問でも結構ですので。

豊田委員、どうぞ。

豊田教育長職務代理者

1つ教えていただきたいのですが、印西中学校の生徒さんとの話の中で、現在パソコンが壊れやすく修理も時間がかかるというようなことが書かれているんですけども、パソコンというのは、以前も伺ったのですけれども、印西市の場合買い取りで実施されていたと思うのですが、例えば壊れたときのバックアップの機器ですかとか、そういうものはお持ちなのかどうかということを教えていただければと思います。

藤代市長  
(議長)

これは学務課になるのですか、指導課ですか。  
それでは松本先生からお願いします。

- 教育DX専門官 はい。お答えします。  
バックアップ機、いわゆる予備機なのですけれども、多少はあるのですが、十分な数は実はそろっていなくて。今本当に、もう底を突いているというような状況でございます。修理にもやはり1、2ヶ月とかなり長い時間を要しているという状況でございます。
- ただ、来年度からその予備機を児童生徒数に対して13%から15%程度をきちんと用意するという予定になっております。
- 藤代市長 (議長) 新年度の入れ替えのタイミングで少し故障しづらくて、こどもたちが使いやすいものに変えようということで今、先生方に考えていただいているので。
- 豊田教育長職務代理者 はい。わかりました。  
それで、以前も伺ったことがあると思うのですが、どうしても買い取りでなければいけないのでしょうか。  
例えばレンタルで、今現在も保守の契約をされているのかどうかはわかりませんけども、保守のついたレンタルであるとか、そのようなものの導入というのはできないものでしょうか。
- 藤代市長 (議長) 松本先生の方からお願ひします。
- 教育DX専門官 続けてお答えします。  
おっしゃる通り、買い取りでなければならないのか、というところに立ち返りまして、実は来年度からこどもたちに配布する端末については、リースそして保守つきということで契約をさせていただこうと思っております。
- 藤代市長 (議長) 結構何校か、生徒の皆様からも、本当に印西中以外もですけれど、そういう声があるので、こどもたちに迷惑をかけないようにやって参ります。  
他にいかがでしょうか。よろしいですか。  
はい。屋敷委員。
- 屋敷委員 はい。屋敷です。  
先生方が負担と感じている業務について、テストのことが出ていたのですけれど、業務委託として、平等なテストとなったら非常にいいのかなと。  
また、それで先生の仕事が多少楽になるのであれば、業務委託はいいのかなと思います。  
また、今中間テスト、期末テストと2回あるのかと思うのですけれど、もし、いらないわけではないのでしょうかけど、期末テスト1つに回数を絞

るなりができると、またいいのかなと感じます。

藤代市長 教育長から今の点、もし何かあれば。  
(議長)

渡邊教育長 まず1点目の業者に委託というところですけれども、それも1つの案としてはお伺いしました。

ただ、すぐにというのはなかなか難しくて、学校によって進度も違う、授業を進めるスピードも違いますので。なかなかそこはすぐにということはできないのですけれども。1つの案として、こちらを受けとめてはいます。

それから2つ目に関してですけれども、これも実際に学校によって違うのです。中間テストをなくしている学校も増えてきつつあります。ですから、昔は1年に5回定期テストを行っていたのですけれども、今は4回にしている学校が多くなってきました。

その辺も統一というよりは、学校それぞれで考えてやっているというところです。

藤代市長 そこはやはり今後も基本的には学校の方針という感じになってきますか。  
(議長)

それともある程度、教育委員会としてこういう方向でお願いをしたいということを言えるものなのかな、どうなのですか。

渡邊教育長 今のところは、基本的に学校それぞれで進めるしかないかなと思っています。

藤代市長 よろしいですか。  
(議長) はい、長尾委員お願いします。

長尾委員 はい。ありがとうございます。

先生方のアンケートを拝見して、やはり数字だけではなかなかわからぬ部分でも、その他、負担・課題を感じている事の欄は、具体的な声が多くて、とてもわかりやすかったです。

その中で先生方の負担ということで、業務が複雑でそれが負担だということや、多様な専門性が必要とされていて専門性を身につけるための研修自体も、やはり先生方の負担になってしまっていること、あとはスクールサポートスタッフなどの人材がうまく活用できていないことなど、複合的な問題が、課題があるのだなというふうに感じました。

また、行事なども先生方の負担になっているということがわかって、保護者としては、少し複雑な気持ちにもなりました。

また、生徒たちからの声には、交流の機会・繋がりや、体験や、参加型の授業、そういうものを求める声も多かったりとかして、ある中学校では、体育祭をこどもたちがやるかやらないかそこから話し合って、どうい

う体育祭だったら楽しいのか、どういう体育祭の形にすれば、体にハンディがあつたりとかそういう子たちも楽しめるのか、そういうことを生徒たちが考えて形にしていく、そして先生方がそれをサポートする方に回るという、お話を聞いて、いろいろな行事が先生方の負担になっている、それを先生方にお任せするのではなく、こうやって声を上げられる、考えつくこどもたち、生徒たちがいて、今の時代、いろいろな情報を自分たちで集めたりもできるので、そういうことをもう少し生徒たちに委ねるような、そういう主体性を育めるような機会もあってもいいのかなというふうに考えました。

藤代市長  
(議長) 教育長の方から今の点、はい。

渡邊教育長 非常に大事な視点で、まさに今これからさらに進めていこうとしている探求的な学習に通ずるところですね。

ですから、教科の学習とか、総合的な学習の時間だけではなくて、今おっしゃられたような行事にも、やはり、やらされ感を持ってではなくて、自分たちで作っていくのだというところで、自分たちで考えて、「どうしていくんだ」と結論を出して、実践していくということは非常に大事な力だと思いますのでね、そういう方向で教育を進めていきたいと、まさにそう考えているところです。ありがとうございます。

藤代市長  
(議長) そうですね、やはり、学校というのは本来的には先生方とか大人が作る場所ということよりも、こどもたちがまさに社会を作っていくその一員であることを学ぶ場だと思いますので、少しずつ、そういったあり方も模索していく必要があるのかなということはすごく今回も感じましたので。

最近のこどもたちはしっかりしていますよね。本当に中学校のこどもたちも自分の思いをしっかり持っている子が多くたったですし、先日Y o u T u b e の撮影で原山小学校に行きましたけれども、本当にこどもたちのプレゼンテーション内容というのですかね。

だから、よりこどもたちが主役であるような学び場というのですかね。それが結果として、先生方にとっても、より良い場になっていくのかなという感じはすごく受けましたので、しっかりとそういった場づくりを我々も教育委員会の方を支えながら進めていきたいと思っているところです。

他にも、増田先生、せつかくなので。ある意味、教員代表という立場も含めて、もし何かあれば。

増田委員 先に感想を言わせていただいてもよろしいですか。

藤代市長  
(議長) もちろんです。

増田委員

アンケートに答えるということとは違う、教職員の方と市長さん、教育長さんとの意見交換ですけれども、代表の方9名がテーマを持って、そして、自分たちの置かれている職場の抱える大きくて重い課題、そうしたことについて話し合うというその機会を持てたということは大変貴重なことであつただろうなというふうに思います。

代弁してくれたところもあるだろうし、まだまだ出し尽くせない、いろいろな思いもあったと思うのですけれども、職員1人の努力ではどうにもならない、また学校の組織で対応したとしても、どうにもならないというところがいろいろあろうかと思います。

ここで出された先生方からの声というものを、それが市それから教育委員会、どのように、この後改善・解決を図っていくということにつなげていくか。

せっかく届いたこの声ですので、貴重なものとして、この後の改善に向けて取り組んでいただけたらというふうに、元同じ職場にいたものとしてはそれを切に願うところであります。

以上です。

藤代市長  
(議長)

教育長の方から何か。

渡邊教育長

ぜひともその方向で、もちろんやっていかなければいけないというのは、こちらも本当に思っているところですので、常にいただいた意見というのは、こちらで受けとめて、それで終わりではなくてやっぱり実際こういったところに反映させて、実際にそれが生きていかなければ対話した意味がなくなりますので。

貴重な意見ですので、それをしっかりと実現していく方向で取り組んでいきたいと思っています。

藤代市長  
(議長)

はい。ありがとうございます。

それでは、議題1は以上とさせていただきまして、続いて議題2ということで教職員アンケート、こちらの結果の報告の方を事務局の方からお願いをいたします。

学務課長

学務課の加藤と申します。

私の方からは、教職員アンケートの結果について、主に報告をさせていただきます。

本アンケートを11月10日より実施いたしましたが、現段階でまとめを行いました。結果的に教職員の意見については、ある程度教育ビジョンに反映されていると認識しております。

ですが、最後に議論する時間を設けられておりますので、もう少しこの点について反映すると良いのではないか、などのご意見をいただければ幸

いです。

よろしくお願ひいたします。

なお本日、少々資料の量が多いですので、多少早口になってしまいますが、あらかじめご了承ください。

それでは本アンケートですが、市内小中学校の教職員約700名を対象に実施し、小中学校合わせて約500名から回答をいただきました。割合としては70%強となり、多くの先生方にご協力いただき、本当に感謝しております。

この場を借りてもう一度感謝を表したいと思います。ありがとうございました。

続いて、本アンケートの設問概要です。

本アンケートは大きく2つに分かれております。

1つは、上段の現状と課題であります。1から5までの大項目と6として自由意見を書いてもらう形式となっております。大項目に対して学校業務に関する選択肢が2つから3つ用意されており、それぞれ先生方は5段階で評価するという形になっております。ここでは提示した学校業務を先生方が課題または負担をどれくらい感じているか、ということを確認する設問となっております。

次に下段の2つ目ですが、取り組みの方向性であります。1つ目と同じように、各大項目に、ある複数の具体的な取り組みの中から、希望するもの、このようなものを取り組んで欲しい、というものを最大で3つ選択してもらう方式となっております。つまりここでは、先生方が要望する取り組みを確認する設問となっております。

それでは、小中学校別に結果について説明いたします。

まず1つ目の現状と課題についてです。

結果について説明する前に、少し補足しておきたいと思うのですが、左側に学校業務を示してありますが、これについては、先ほど説明がありました8月下旬に実施した市長・教育長と市内小中学校の教育層の先生方との意見交換会から、先生方から意見としてあがった負担感がある業務を考慮して設定いたしました。真ん中に結果を棒グラフで表し、数字は選択数及び割合を示しております。上段は全体、下段には教頭についての結果を示しております。一番右側には、先生方からいただいた自由意見を示しております。この後も同様な表現の仕方となっておりますので、よろしくお願ひいたします。

それでは説明いたします。

大項目1、人員体制に関することについて、小学校です。どの項目も80%以上の教職員が負担・課題と感じている結果となっております。教頭についても特に「学級担任以外の教職員の不足」に負担・課題を感じているという結果が得られております。

続きまして中学校です。教頭は特に「特別な支援を要する児童生徒への対応」が負担・課題に感じている結果となっております。自由意見の欄にあります通り、小規模校での職員の負担軽減や職員のバランスのとれた配

置等がやはり必要ではないか、という意見もいただいております。

続きまして大項目2、業務勤務時間の適正化に関することについて、小学校です。全体では「勤務時間外の電話対応」を、教頭は「部活動練習」に負担・課題を感じている結果となっております。意見としましては、事務作業の多さや持ち帰りの仕事等について言及される意見が得られております。

続きまして中学校です。小学校と同様な結果となっております。その他の意見としましては、土日祝日の部活動や、学校外でのトラブルの対応等にも負担・課題を感じているという意見をいただいております。

大項目3、指導業務の改善に関するここと、小学校です。約70%が負担・課題と感じている結果となっております。その他として、研修機会の拡充や、公平な業務負担、効率化等を求める意見をいただいております。

中学校です。部活動について、70%以上の負担・課題を感じている結果を得られております。意見としましては、いじめや長期欠席の生徒への対応の難しさや、指導案作成等の授業についての意見をいただいております。

続きまして、大項目、専門性と協働の推進に関することについて、小学校です。教頭については、約80%が組織全体の業務の効率化の不足に負担・課題を感じている結果を得られております。その他の意見としましては、若手職員や経験の少ない講師への指導体制の充実を求める意見をいただいております。

中学校です。全体的に小学校に比べて、負担・課題は低い傾向となっております。その他の意見としまして、免許外の教科指導や報告書作成などについて負担を感じているような意見をいただいております。

最後の大項目です。働きやすい環境づくりに関することについて、小学校です。今説明した項目と比較すると、負担・課題の数的には相対的に低くなっている結果となりました。教頭については約60%が「子育て世代の職員が休みを取りやすい環境の不足」に負担・課題を感じている結果をえられております。

中学校です。小学校と同様な結果となっております。

最後、現状と課題についてのまとめですが、大項目についてまとめました。上に行くほど先生方、教職員が相対的に負担・課題に感じている項目、下に行くほど、負担・課題が少ないのでないかという項目になっております。

これを見ますと人員体制、業務勤務時間の適正化に関するものが相対的に負担・課題に感じている結果となっております。

続きまして、2つ目の取り組みの方向性についてでございます。まず結果を説明する前に、先ほどと同じように補足させていただきます。左側に具体的な取り組みを示しております。これについては、先ほどの意見交換会等の、意見を踏まえながら、事務局側である程度設定いたしました。真ん中に結果を棒グラフで示し、数字は選択数・割合を示しております。右側に先生方の自由意見を示しております。

それでは説明いたします。

大項目、人員体制に関する事項、小学校です。特に個別支援・対応が必要な児童生徒や、学年業務をサポートする人材配置を求める結果となっております。意見としましては、正規職員の増員や育児休暇などの補充体制の強化を求めるような意見も得られております。

中学校です。この結果については、小学校とほぼ同じような結果となっております。自由意見についても小学校と同じような結果となっております。ただし、中学校ですので、部活動に関する人員配置を求める、望む声もいただいております。

続きまして、大項目、業務勤務時間の適正に関する事項、小学校です。必ずしも学校職員が担う必要のない業務、保護者対応に関する業務の見直しを求める結果が多くなっております。その他の意見としましては、学校行事の精選や調査・アンケートの多さ等についての意見をいただいております。

中学校です。ここも小学校と同様な、結果としては得られております。意見としてもほぼ小学校と同じような意見をいただいております。

続きまして、大項目、指導業務の改善に関する事項、小学校です。学校行事のさらなる精選、学校行事に関する準備の一部の業務委託を求める結果が一番多くなっております。意見としましては、通知表の改善や教科担任制の導入という意見をいただいております。

続きまして、中学校です。結果につきましては小学校と同じような結果となっております。意見としましては、定期テスト問題の業務委託や、各業務におけるマニュアルの作成等が挙げられております。

大項目、専門性と協働の推進に関する事項、小学校です。不登校児童生徒や保護者への対応のための専門職との連携を多く求める結果となっております。意見としましては、体育科や音楽科などの専門科目において、専門性の高い教員の配置を望む意見をいただいております。

中学校です。小学校と同様な結果が得られております。意見としましては、中学校では、ICT環境の整備と利活用の推進や、学校司書や専門スタッフによるサポート体制の強化を求めるような意見をいただいております。

最後の大項目、働きやすい環境づくりに関する事項、小学校です。代替職員の配置、時差出勤等の新たな働き方の導入を求めている結果となっております。その他の意見としましては、校務DX化専門のような専門職の配置などの人員体制の強化や、メンタルヘルスに関するサポート体制の充実を求めるような意見もいただいております。

中学校です。結果につきましては、小学校と同様な結果になっております。意見としまして、養護教諭の複数体制などの人員体制の強化や、空調設備やPC設備などの施設の改善や備品の整備を求めるような意見をいただいております。

取り組みの方向性について、本当に多数のご意見をいただいております。ここでは、詳細にご紹介するのは割愛させていただきますが、ここに

ついても今後、分析調査をする必要があるかというふうに考えております。

最後、まとめということですが、先ほどと同じように上にあるほど、選択した先生方が多い項目となっております。ですので、人員体制業務、勤務時間の適正化に関するところを多く求めてきていると。働きやすい環境づくりというものが少し少なかったと。

ただし、ここでは小項目として、「平日に年休を取得しやすいための代替職員の配置」を選択する項目があったわけなのですが、ここについては、他の大項目にある項目よりも非常に極めて高い数字を得られております。

この結果等を踏まえまして、現段階の仮説ということになりますが、人員不足が各項目の負担感に繋がっているだろう、必ずしも学校職員が担う必要のない業務の量が多いだろう、教育課題等への関係機関との連携の必要性が高まりつつあるだろう、というような仮説が立てられるのではないか。と同時に、今後の国、県、それから社会情勢等を踏まえて、我々が今作成中である教育ビジョン、働くプロジェクトにも反映されておりますが、シャドーイング調査であったり、人材配置の制度設計というものを進めて参りたいというふうに考えております。

最後、総合的なまとめということになってくるわけですが、今回の結果を踏まえて、先ほども紹介された部分もあるのですが、先生方の意見交換会のときにやはり人員配置として、我々担当課がよりスクールサポートスタッフというふうな職員を配置をしました。

ただ、なかなかこの有効な活用がされてないという意見をいただいて、ある意味少しショッキングだったと同時に少し反省をしなくてはいけないなというふうに自分は思いました。

やはり、人員配置を適切に行つたとしても、昨今の学校現場で求められている、組織的な対応につなげていかなければ、やはりなかなか、学校現場というものは、業務の効率化が図れないし、働きやすい、それから働きがいのある職場環境というのは築けない。

そして、こどもたちによりよい教育活動を行うことができない。いわゆるウェルビーイングが高まっていかないということが推測されます。

ですので、今後、我々もどういうふうな視点でやっていかなくてはいけないのか、単純に広い視点を持って、バランスよく両輪で進めていくようなことも必要でないかと。時と場合によっては、いわゆる両輪ではなく、それが3つになることもあるかもしれません。やはり効率を高めていく、働き方改革を進めていくためには、そういう視点も必要ではないかというふうに考えております。

以上でございます。

藤代市長  
(議長)

はい。ありがとうございました。

内容について、これも教育長と私からそれぞれ補足をした上で、質問・コメントを受けましょうか。  
教育長の方から、何かあれば。

渡邊教育長

まず、500名を超える先生方が、大変忙しい中でこのアンケートにご回答いただいたということ、本当にありがとうございます。

本当にお礼を言いたいです。ありがとうございます。

この教育ビジョンを作るときに、これまでがそうではなかつたと言っているわけではないのですけれども、いわゆる絵に描いた餅のようでは全く意味がないだろうと。

作って終わりではなくて、それを現場の先生方も常に見ていただいて、今進捗はどうなっているのだろうかとか、そういった元になるものを作っていくかないと意味がないというふうに思い、特にワーキンググループの方々が一生懸命やってくださっていますので。その意味でも、この先生方の実際の声というのは、本当に大事にしたいし、できそうだなというふうに思っています。

本当にありがとうございました。

藤代市長  
(議長)

現場の先生方の声をしっかりと拾えるようなアンケートを事務局の方で作っていただいたので、もともと私はこういう仕事をしていましたけれども、非常に良いアンケートだったのではないかなと思いますし、もう1段踏み込んで、例えば、人が少ないというときにでは何が足りてないのかであるとか、業務が負担が重い場合に何が負担になっているのかというところまで掘り下げて、アンケートをできたら、我々にとっても非常に貴重な資料になるのではないかなと思います。

やはり、まずは先生方の負担ですよね。先ほど申し上げた通り、本来やらなくていいような業務というか、先生方以外でもできる仕事をいかに他の方々にお願いできる体制を作っていくか。また、やっている仕事の中で、これはさらに効率化できるだろうというものを効率化しやすいような仕組みを我々として整えていくことが大前提。

その上でようやく、指導であるとか専門性等々を高めていくあるとか、こどもたちと向き合うという、本来的な学びの場を作る仕事により時間が使えていくのだろうな、ということが今回のアンケートでもよくわかりましたので、教育長のおっしゃる通りで、取って終わりではないので、アンケートは。これを踏まえて来年、各取り組みを各ワーキンググループの方でしっかりと進めていただけるような、基礎的な材料に生かしていただけるとよろしいのではないかなと感じております。

委員の皆様からそれぞれコメント、質問等々あればお願ひいたします。

大体いつも豊田委員が口火を切っていただく形になってきましたけど、最近。では、豊田委員の方から。

豊田教育長職  
務代理者

はい。ありがとうございます。

アンケートを拝見いたしまして、本当に先生方、大変ご苦労されているということがよく、また改めて理解ができたところでございます。

そういった中で、先生方の働き方改革というような前提に立って、いろ

いろいろ改善等を進められているとは思うのですが、働き方改革と言われながら、先生方もそうですけども一般の行政職の方もそうだと思うのですが、やることが年々増えているような気がします。

ですから、そういうことを事細かに分析していただいて、この教育ビジョンにつなげていただくことが一番よろしいのかと思います。

また、この中に子育て世代の先生が休みを取れないというような大きな問題があると思います。例えば先生方の年休の取得率だとかは私にはわかりませんが、一般行政職と比べてどうなのかとか、その辺のことによくわかりませんけれども、とにかくハードソフト両面でバックアップをしていただければよろしいかと思います。

以上でございます。

藤代市長  
(議長)

ありがとうございます。

屋敷委員、大丈夫ですか。はい。同じ意見ということで。  
長尾委員の方から、はい。

長尾委員

ありがとうございます。

少子高齢化、少子化と言われて子どもの数はずっと減っている。けれども、人員不足がこの教育現場の中で問題になっている。それはいつからそういうふうになったのだろうと思って、少し調べたら、2000年以降から何かそういうことが社会的に問題として取り上げられるようになったということを先ほど目の当たりにして。

子どもの数が減っているのに人員が足りない、それはやはり学校ですることが多様化して、そして、先生方がやらないといけないことが増えていくのに、それに対応する先生方の時間だったりとか、やることが多すぎて、そこに力を注げない、そういうことがすごく問題だなという感じました。

やはり最近の教育は専門性が問われる環境にあると感じるので、先生方以外に、もしかしたらこの専門性のある方に多く関わっていただけるような体制を作っていくのも、1つの案なのかなと思いました。

藤代市長  
(議長)

最後の専門性とか、もし教育長の方から何か言えることがあれば。

渡邊教育長

おっしゃる通りで、大事なことなのです。

これは次の各論の素案のところで少し触れたいと思いますので、またお願いします。

藤代市長  
(議長)

はい、ありがとうございます。  
では、増田委員。

増田委員

必ずしも学校職員が担う必要のない業務の量が多い、というようなこと

がありましたけれども、確かに学校職員が担う必要があるのか、担う必要がないのかというところを分別するということについてはちょっと難しい、単純に判断できるものではないなというところもあります。

また、こどもに関することについては、なかなか他にお願いするとかいうことが、いろいろな意味で難しいというようなところがありますが、確かにこれだけ学校の職員に負担がかかっているこの状況の中で、解決の糸口をたどっていけば、やはりこここのところの見直しというか、考え方については、皆で協議する必要があるなというふうに思います。

また、人員不足はあるのですけれども、人の配置というのも、これはなかなかやってくださる方、やれそうな方を見つけるというのが、非常に困難な状況になっているというところもあって、学校現場にとっては本当にやってくださる方を探すということにも、どれだけ労力と時間をかけているかというところも今大きな負担になっているだろうというふうに思います。

資格があるとかないとかもあると思うのですけれども、この市の中で、もしかすると、有能な方が発掘されずにいるというようなところもあるかと思うので、こうした現状についてご理解いただきながら、学校教育をサポートしてくださる、応援してくださる方を見つけていくということの方法もあるのかなというふうに思います。

藤代市長  
(議長)

これも後程、素案の中で少し触れる形ですか。

渡邊教育長

はい。

藤代市長  
(議長)

では、2つ議題が終わりました。

それでは3つ目、今日の一番大きなところになりますけれども、印西市教育ビジョンの素案について。こちらは教育長の方から、ご説明をいただくことになりましたので、お願いします。

渡邊教育長

それでは、私の方から印西市教育ビジョンの素案について説明をさせていただきます。

まず、8月の第4回総合教育会議で総論の8項目についてはお話をさせていただきました。本日はその中で、次に、各論の3項目について説明をさせていただきます。

まず、今最初の1ページ目が映っていますけれども、「学びが変わる 未来が動き出す」と、この印西の教育ビジョンのキャッチフレーズ、このような言葉にいたしました。

これからご説明いたしますけれども、これまでやってきたことをすべて否定するということではなく、これまでのことに加えて、さらに新しい視点で我々これから取り組んでいくのだということになります。

では各論について、初めにプロジェクトの1、教職員が今よりも軽やか

に前向きに働くようにするために、教職員の働くプロジェクトを進めます。

まず、印西市における現状ですけれども、学校現場では様々な業務によって、やはりこども一人ひとりに向き合う時間が十分に確保できていないという現状がございます。

その中で、特に先ほどからも出ていますが、教職員の方々の長時間勤務、そのものもそうなのですけれども、それだけではなく、それによって精神的な負担もかなり大きくなっているということで、やはり課題としては安心して働く、そういう職場環境をつくるということが求められるのかなというふうに思っています。

次のページです。もう1つ、本市における現状というところで、少し数字が小さくて見づらいとは思うのですが、15ページになりますけれども、この左上の表は、教職員の時間外在校等の時間ですね、これは国がガイドラインで示していますけれども、ひと月45時間を超えないということになっております。県の働き方推進プランでも同様の目標が掲げられています。

では、本市の教員等はどうなのかというところで、まずは教員等を見ますと、年々減少傾向にはあります。時間外の勤務時間在校等の時間が減ってはきています。ですから、令和6年度に中学校で45時間を超えた教職員の割合が増加してしまいました。割合も50%を超えているという現状がございます。

また、この表の一番右の欄については、45時間を超えた先生方のうち、さらに80時間を超えている人の数字です。80時間といいますと、これはいわゆる過労死ラインと言われている時間数になります。

また、教頭先生のところを見ますと、ほぼ全員が45時間を超えて働いていただいているという現状がございます。

また、その表の左の下の方、小さな表がありますけれども、これは教員の未配置の状況です。これはそこにるように年々こちらも解消はされてきています。ただし、年度途中で産休とか育休、こういったものを取得する先生方もおります。そうしますと、その代替の教員が入らないということで、こちらが非常に深刻な問題であるというふうに思っています。

このようなところを踏まえまして、まずは教頭先生の業務改善、教頭先生の支援が急務であろうと、また、未配置の解消ということは大きな課題かなというふうにとらえています。

次のページです。具体的に、この働くプロジェクトを展開していくわけですが、子どもの笑顔が生まれる、教職員の働きがい日本一を目指します。そのため、青いところ、①から③の施策とその下についていますが、実施の方向性を示しています。この後、主な取り組みについて話をしますが、特にその前にそこの右側にあります、ピックアップ事業、4点挙げてあります。

まず一番上、シャドーイング調査の実施。先ほど学務課長からの報告のところにもありましたけれども、これはやはり教頭先生の業務の改善が急

務であるというところから、こちらも7月の第3回総合教育会議ですか、妹尾先生の講演にも出てきたものです。教頭先生、朝の出勤から退勤までのすべての業務を分単位で記録をして、その働き方というのを可視化して、そこから課題を洗いながら出しながら、業務改善につなげるというものです。

それから2つ目、先ほどご質問が出ましたけれど、専門チーム体制の構築というところです。非常に様々な課題、対応しなければならないことを学校では抱えている中で、やはり教員だけではとてもではないけれど手が回らない。そのようなところで、専門家チームによる相談体制を構築する、さらに外部の相談窓口を設置するということで、学校の負担軽減を目指して、専門の人材を配置するというものです。

それから3つ目、ゼロトラストというところですけれども、これはトラストがゼロ、つまり何も信用しないというところです。そういう考え方でのセキュリティに関するものです。安全性をより強くするために、クラウド化をして、そういうた向上に努めて参るという方向性です。

最後4つ目、エンゲージメント調査の実施というところですけれども、これは職場ですか、自分の仕事を業務に対してどれだけの愛着を持っているか、貢献意欲を持っているのか等を調査するものです。この結果をもとに職場の環境づくり、よりよい環境づくりに生かして参りたいというふうに考えています。

では、具体的に、まずそのプロジェクトの施策の1、教職員の負担を減らすために人員体制の強化という点です。

学校に多様な専門人材を配置しまして、学習支援、相談体制、校務の支援を充実させていきます。具体的に幾つかそこにありますけれども、情報教育化アドバイザーといったものを市の教育委員会の中に配置します。さらに学校には学年アシスタント、ということで市で会計年度職員さんを任用して、アシストをしていただく。

また、右側にあります、専門スタッフという言葉がありますけれども、これは特にですね、学校の事務職員または養護教諭の補助をしていただくなきを何とか雇用していきたいというふうに思っております。

さらに一番下のところですけれども、市教委の指導主事。実は現状では、指導主事が補助金の業務ですか、予算決算の事務、また伝票処理などを実際仕事として行っていて、かなりその負担が大きくなっていて、本来の学校を、教員を支援していくという仕事が非常に大変になっているというところがありますので、教育委員会の中にそういう事務を進めていただける職員を配置して、指導主事が本来の仕事、学びを支援する、そういう仕事に専念できるような体制を築いていきたいと考えております。

施策の2です。

こちらも負担を減らすために業務、勤務時間の適正化を図って参ります。教職員本来の役割、これを明確にいたしまして、地域や外部との役割分担を進めるとともにデジタル技術を活用して、校務の効率化や教育の質を高める仕組みを整えていきたいと思っております。

その中で、例えば勤務時間外の対応についてと、先ほども出ていました電話対応等、非常に長くなる場合もございます。こちらについて市教委の方で改めて方針を定めて、学校の負担を減らしていきます。

また、現状、例えば校外学習ですとか、児童生徒を学校外に行事で引率をする際に、教員同士が安全対策のために連絡を取り合います。その連絡手段は、実は教職員の私物のスマートフォン等を使っているという現状があるのです。ですので、これもやはり学校用のモバイル端末というものをこちらで購入して、貸し出すような形で、私物の利用というのは本来おかしな話ですので、その辺を改善していきたいというふうに考えています。

続きまして施策の3です。

これは働きやすい環境整備、さらに専門性の向上というところですけれども、そこに教職員の心身の健康に配慮した環境整備、さらに一人ひとりが専門性を高めて成長し続けられるような、そんな支援をしていきたい。特に専門性の向上については、下の方にありますが、教職員が他の自治体等、先進的な取り組みをしている学校を視察あるいは体験をして、学びを深めて、その身につけてきたもの、知見を、自分の学校や印西市の職員・学校現場に還元していくような、そのような制度を作っていきたいと考えています。

これは先ほど話題に出ました、文科省が示した働き方改革に関する関わる3分類というところで、必ずしも教員が担うべきではない業務等、この今年の8月に改定されたものです。いくつか項目が増えています。参考として挙げておきます。

次のページは実現に向けたロードマップです。

来年度8年度から5年間で取り組むものを示したものです。後程、詳しく見ていただければと思います。

次にプロジェクト2、自分らしさを生かし、ともに創る学び、こども学ぶプロジェクトについてご説明いたします。

まず、本市の現状の中で、特にこれは本市に限ったことではありませんけれども、社会の変化に伴って教育には新たな役割が求められています。印西では一部の学校で探求学習、先進的なデジタル教育が進められておりますけれども、まだ他の学校には十分にその取り組みが広がっていない、そんな現状がございます。ですので、これから、従来の画一的な授業を見直して、学びの変革を推進する必要があります。すべてのこどもが自分らしく学びに参加できる拠点と支援体制を整備していきたいと思っています。

これも少し字が小さくて見づらいですけれども、全国学力学習状況調査の中から、令和6年度と7年度を比較したものですけれども、調査対象の児童生徒がもちろん違いますので数値が下がったから学校現場が十分な教育をしてないと、そういうことではありません。ですから、印西市としての課題があると思われる項目を掲載してあります。このような状況を踏まえましてこどもの学ぶプロジェクトを展開していきます。

まず、未来を切り開く世界モデルの学びということで1から4の施策を

示しておりますけれども、これも同じように右側にありますピックアップ事業、こちらを少し触れておきたいと思います。

まず1つ目、ロボット教材のロボッチャですが、これは先ほどから話題に上がっています。これを全小中学校に導入して、ＳＴＥＡＭを総合的に探求する学び、これを展開して参ります。

2つ目、小中学校9年間を通じて英語学習を行って、実践的なコミュニケーション能力の育成を図っていきます。

3つ目にあるのは、仮称ですけれども街のステーションまきば、これを設置すると。今、市教育支援センターは緑のまきばと森のステーションまきば、この2ヶ所を設置しておりますけれども、それに加えて交通の便のよい居場所に3つ目のまきばを設置して、さらに安心して学べる場を増やしていきたいというふうに思っています。

そして4つ目に掲げていますが、これも仮称ですけれども東の原義務教育学校、これを令和11年4月に新設をして、9年間を見通した学びを実現する。そのようなところでございます。

次の施策の1というところですが、先進的なデジタル教育の推進ということです。

デジタル技術を活用して、このＳＴＥＡＭを総合的に探求できる学びを推進すると、先ほど申し上げた通りです。さらに各教科で情報活用能力を高めるような支援体制を整えていきます。ロボッチャについては先ほど申し上げました。加えて、各教科で取り組む情報活用の手引きですとか、実践事例をまとめて、これをこどもたちや教職員が共有して活用できる、そんな仕組みを整えていく。そのことで、教職員の授業改善とか、こどもの学びの質の向上に繋がると考えています。

施策2、デジタル基盤を活用した質の高い探求的な学びの実現ということで、こどもたちが自ら問い合わせ立てて考え、協働して新たな価値を創造する、探求的な学びを日常化する。自立的で楽しく学び続けられるよう授業改善を進めるということです。この自ら問い合わせ立てることが非常に大事になります。先ほど行事の点でも、長尾委員からお話をあったところですが、人から与えられた課題に取り組むのではなく、自分で問い合わせ立て、そして自分で決めて調べる、まとめる、時には友達や教師の力を借りながら、課題を解決したり、創造したりする。

そんな、わくわくするような事業を目指していきたいと思っております。

続いて施策の3、グローバル社会を見据えた学びの推進ということで、多様な文化や価値観を理解して、国際的な視野を広げる学びを充実させるとともに、世界と繋がる交流の場を整え、英語によるコミュニケーション力向上の支援をして参ります。

令和8年度からすべての小学校が教育課程特例校として、小学校1年生から英語学習を行います。中学校では英会話アプリを導入したり、オンラインで国際交流事業を進め、英語のスキル向上、さらには異文化理解、このようなものを進めていきたい、育んでいきたいというふうに思っております。

ます。

続いて施策の4です。

これは一人ひとりの状況やニーズに応じた多様な学びの場を広げるとともに、特別な支援を必要とするこどもへの支援をさらに充実させていきます。個々に応じた学びを支える拠点や制度の整備と、左側の欄ですけれども、先ほど言ったように3つ目の教育支援センターを設置します。

さらに各小中学校に校内教育支援センターを設置していますけれども、これも数を順次さらに拡大していく予定でございます。

また、気軽に学び合い、交流ができる場。シーンとした中で自習をするということも大事な場であるし、さらにそうではなくて、少しお茶を飲みながら一緒に勉強する、そんな場所があつたらいいのかなというところもこどもたちの意見からも対話の中で出ておりました。また、ＳＴＥＡＭなどの創造的な活動ができる場、このようなものを整備していくたらしいというふうに思っております。

さらに印西市の特徴であります、小規模校から大規模校が地域によっていろいろな学校がございますけれども、その中で特に小規模校の特性を逆に生かして、自然の中で、例えば異年齢の学年でともに学び合う、対話する、そのような授業、教育ができたらいいのかなと。

こちらも8月の総合教育会議でご講演いただいた久保先生のイエナプランなどが参考になっていくのかなというふうに思っております。

また、右側ですけれども、地域と連携した多様な学びの支援というところで、右側のところで、市の教育センターを支援の拠点といたしまして、学校、民間のフリースクールさんなどと連携をして、こどもや保護者を支える体制を充実させていきたいと考えています。

また、フリースクールの事業者さんや利用者への補助、こちらの方も考えて進めております。

さらに学校のプールの老朽化というのもあるのですけれども、民間プールを活用した水泳授業を拡大して、教育の質、また安全性を高めていきたいなというふうに考えております。

また、インクルーシブ教育システムの充実というところで、これも今月18日でしたか、総合教育会議での野口先生のご講演をいただきましたけれども、その内容も参考にしながら、多様性に尊重する意識を育んで、すべてのこどもが安心して自分らしく学びに参加できる、そのような学校づくりを進めて参りたいと思っております。

学びを支える環境整備について、そこに4点、主な取り組みを挙げてあります、こどもたちからもまた教職員からも出てきました特別教室、体育館の空調、こちらをできるだけ早いタイミングで、整備をしていきたいなというふうに思っています。

ロードマップを示しました。

最後にプロジェクト3、みんなが繋がり、共に育む地域、共に育むプロジェクトについてお話をさせていただきます。

まず、本市の現状ですけれども、こどもたちが地域と繋がり、多様な学

びや体験が十分に得られてないのかなと。そのようなところが整っていないのかなというところがございます。ですので、そういった多様な学びや体験を十分に得られる環境を作っていく、これが課題かなというふうに思います。

また、コミュニティ・スクールについてですけれども、今年度から印西中学校区で学校運営協議会を設置しました。今後順次導入しまして、令和10年度までには全校で導入する予定になっています。そのところで、課題に4点ほどを示しておりますけれども、こちらも9月の総合教育会議、柏市の梅津先生にご講演いただきました、その内容についても大いにヒントになるのかなというふうに思っております。

この子どもの学びを社会で育む“共育”、共に育む日本一を目指しますと、ということで施策の①から③を掲げました。

ピックアップ事業としてコミュニティ・スクール事業、そこについては今話した通りで、地域と学校を連携して子どもたちの成長を支える体制を作ります。

また2つ目には、アフタースクールの導入ですけれども、小学生の放課後の居場所として、学童クラブがございますけれども、こちらのアフタースクールについては、保護者の就労状況に関係なく、安全安心な居場所として、また多様な体験・活動ができる機会を提供する、そういったものにして参りたいと思っています。

3つ目は、スポーツとか文化芸術活動、これを地域と連携して展開していく、そういう体制を整備していきたいと思っています。

具体的に施策の1ということで、学校と地域が力を合わせて、地域全体で子どもの学びや成長を支える仕組みを作っていくということで、その下にありますが、地域学校協働活動推進員を配置しまして、学校運営協議会と地域学校協働活動を一体的に推進していく、そういう体制を作って参ります。

施策の2です。

放課後等の学びと育ちを支える体制の整備というところで、放課後の時間、子どもたちが安心して過ごせる場を広げて、多様な学習や体験活動を展開して、成長を支えて参ります。今述べましたように、学童クラブと併せてアフタースクールを導入して参ります。

施策の3です。

これは中学校の部活動の地域展開ということで、学校の部活動を地域へと段階的に移行しまして、持続可能な運営体制を整えていきます。

地域の力を活用させていただいて、生かして、健全で豊かな活動を展開できる仕組みを築いて参ります。

本年度9月から野球と女子バレーボールの休日のクラブ活動が始まりました。この後、生徒や保護者、指導者、教員等へのアンケートを実施しまして、その結果を十分分析し、8年度の9月からはすべての休日の部活動を廃止して、地域移行・展開していく予定になっております。

こちらロードマップです。後程ご覧ください。

以上、印西市教育ビジョン素案の各論部分について、駆け足で説明をさせていただきましたが、最後に改めて、この教育ビジョン策定にあたっての基本的な考え方、これを確認して終わりたいと思います。

1つ目、地域にとって、こどもたちは宝であり、地域の未来そのものであるということ。

2つ目、正解がないと言われる時代において、地域の未来であるこどもたちが幸せに生きる力を育むことこそが最優先事項である。

3つ目、教育に関する課題がこれまで以上に多様化する中で、市長部局と教育委員会が市の目指すべき教育を一緒に考え、一体となって推進していく。

この3点を確認させていただいて、私からの説明を終わりにします。よろしくお願ひします。

藤代市長  
(議長)

ありがとうございます。

ここに至るまで今年の6月ぐらいからでしたか、ワーキンググループは。

正直な話をしてみると、結構、テーマとして重いので、1年各種計画を延長した上で、1年半ぐらい時間をかけてもいいのではないかというようなことも、最初私の方から提案をさせていただいていたのですけれども、やはり教育委員会また企画政策課を含めて事務局の皆様としても、なるべく早くしっかりと作った上で現場を変えていくということに移っていきたいということも言葉としていただきましたので、かなり職員の皆様には、本来であれば、もっと時間をかけるべきことを相当程度、集中的に議論をいただいて今日に至っているということです。

一般的にこういった行政の仕事をしている方であれば、この内容というのは、かなり踏み込んでいろいろな具体的な施策を打ち出しているということは感じていただけるのではないかなと思いますので、本当に様々な総合教育会議の議論を踏まえながら、また現場の皆様の声を踏まえながら、ここまで素案を作っていただいた教育長もそうですし、また教育委員会の皆様また、企画政策課はじめ、市長部局の皆様にも感謝を申し上げたいなと思っております。

私からは特に内容についての補足はありませんので、これがちゃんと進んでいけば、必ずや印西の教育は前に進んでいくのではないかという確信を持っているところであります。

内容等々、質問やコメント、様々あるかと思いますので、委員の皆様の方からお願ひをいたします。

はい、増田委員。

増田委員

ご説明ありがとうございました。

それでは、印西市の現状と課題について、15ページの中で2つほどお聞きしたいことがあります。

1つ目ですけれども、教職員の出退勤時刻等が表で示されています。

この表から伺える教頭・教員等の長時間労働の現状、在校時間が減っているという傾向にはあるということですけれども、45時間を超えて勤務されている先生方、教頭先生ほぼ全員、教員等50%、この人数を、どう減らしていくか、どのくらいの見通しを持って減らしていく計画とお考えなのか、お聞かせいただければと思います。

同じページでもう1点です。

新たな課題として、教職員の未配置の問題が挙げられております。

先ほど私も触れさせていただきましたが、産休・育休それからその他の事情で休暇を取る先生方の、人数も増えてきている中で、その代替教員が配置されていないという状況は本当にきついことだと思います。

産休等の代替教員を確保することの難しさは、印西市に限ったことではないと思うのですけれども、本市として、未配置に対してどのような取り組みを考えているのか、お聞かせいただければと思います。

よろしくお願ひいたします。

藤代市長  
(議長)

教育長からしますか、それとも事務局からしますか。  
それでは、事務局の方から。

学務課長

ありがとうございます。

最初の1点目のどのようにというところですが、今回こういうふうなアンケートをとって、先生方の要望等が明確になりつつ、明確になった部分それであるかというふうに思います。

そういうところをまたこの事務局の方で精査して、どういうところを攻めていけば効果的に出せるのかということを、今一度精査していきたいなというふうに考えております。あとは、期間ということなのですが、教育ビジョンの方にもロードマップが示されておりますので、やはり目標は必要かなというふうには考えております。

今、委員のご指摘にあった45時間というところなのですが、実は今年度の6月だったと思うのですけれども、先生方の給与に関する法律が一部改正になったかなと。いわゆる休職調整額というところなのですが、それに基づいて、この特別部会がいろいろな提言をされております。

例えば、1年間における1ヶ月のこの在校時間ですが、勤務外の在校時間ですが、それを1年間の平均として30時間程度にしていきたい、ということが提言されたりとか、あとはこの働き方改革の中に、働きやすさ、働きがいというふうなことも、指標として示していく必要があるのではないかと言うものが出来ました。

ですので、そういう国の動向もありますので、そういうことを踏まえて、そこのある程度の目標については示していきたいなというふうに考えております。

それから2つ目についての、増田委員もよくご存じのところであったと思うのですが、いわゆるこの未配置問題、特に頭を抱えているのは、年度途中で先生方が産休・育休に入られたその代替がほとんど入らないという

状況になっております。一時は、退職された先生方に声をかけるということが主流だったわけなのですが、もう限度に来ています。

そこで、ある市の教育委員会さんのことを見習って、本市でも人材を確保するために、独自の人材バンクを設立し、この9月から始めたところです。周知をかなり拡大して、人が集まるようなところに周知をしていくて、何とか学校現場で働いていただけませんかというふうなものを、いわゆる広告を出したというような感じなのです。

そうしたところ、幸先よく、こちらが予想もしないような免許をお持ちの方が登録をしてくれたのです。ペーパーティーチャーであることは確かなのですが、その登録者方にいろいろな支援をこちらはしていきますよということを言って、具体的に支援策を示したところ、本当に大変嬉しかったのですが、令和8年の4月から、ある中学校に音楽の非常勤をやっていただけたということになりました。

自分もこんなに効果が出てくるとは考えていなかったのですが、これからはもっと効果が出てくるようにこちらもさらに工夫をしていかなくてはいけないとは思っておるのでけども、そういう独自の取り組みを行つて、何とか、ご指摘をいただいた代替職員についても、確保していくたいというふうに考えております。

以上でございます。

藤代市長  
(議長)

よろしいですか。  
それでは他にいかがでしょうか。  
はい、どうぞ、豊田委員。

豊田教育長職  
務代理者

ありがとうございます。  
それでは16ページの働くプロジェクトの展開というページをご覧いただきたいと思います。その中で、緑色の部分ピックアップ事業でございますけれども、先ほど、教育長の方からゼロトラスト環境基盤整備という説明がございましたけれども、少し具体的な説明をいただきたいということと、ロードマップにも記載されておりますが、スケジュールや内容についても併せて教えていただければ幸いです。

藤代市長  
(議長)

これは、そうですね、松本先生の方から、お願ひします。

教育DX専門  
官

お答えいたします。  
まず、ゼロトラスト環境整備というのは学校のネットワークに入った時点で安全とみなすのをやめて、アクセスする度に安全性を確認する仕組みでございます。

パソコンやタブレットが正しく管理されているか、また操作しているのが本人なのか、また危険なサイトや通信ではないかということを自動的に確認して、情報漏えいであるとか、不正アクセスを未然に防ぐ、そういう

た環境をつくろうとしております。

具体的なスケジュールなのですけれども、令和8年度にゼロトラスト環境に向けた詳細な設計と準備を行って、令和9年度には統合型校務支援システムを併せて導入していきます。それと同時に、ネットワーク回線の増強、そして校務用パソコンなどを整備していきます。それ以降、令和10年度以降には、新しい環境での運用をしつつ、各業務の最適化を行っていきたいなと思っています。

以上でございます。

豊田教育長職  
務代理者

はい。ご説明ありがとうございました。

安心安全なクラウド化ということで、今後とも検討の方よろしくお願ひしたいと思います。

藤代市長  
(議長)

他に、増田委員どうぞ。

増田委員

ただいまと同じ、16ページのところです。ピックアップ事業の中で、専門チーム体制の構築ということで教育長の方から、弁護士や心理士を含む専門チームによる相談体制を整えるとありましたが、これは他市で取り入れられているような事例があれば教えていただきたいと思います。

それとシャドーイング調査、エンゲージメント調査というものが挙げられていましたけれども、そうしたことが実施後に先生方の働き方改革にどのように生かされていくものなのか教えていただければと思います。

よろしくお願ひいたします。

藤代市長  
(議長)

ありがとうございます。

では、これも加藤先生ですか。

学務課長

まず1つ目の方なのですが、自分が知っている限り、かなり進んでいるのは、奈良県にあります天理市がこのような形で制度化が進み、実際に実施されています。ですので、私の方も、問い合わせをして、いろいろ参考にしていきたいなというふうに考えております。

ただし、最近も兵庫県の明石市さんがこの専門家の方を入れて、ということが記事になっておりました。ですので、これは全国的にこういうふうなことが広がっていく可能性があるのではないかというふうに考えております。

それから2つ目の方なのですが、シャドーイング、エンゲージメント調査をどう反映していくかですが、1つは、先ほどちょっと教育長からもありましたが、特にこのシャドーイング調査については、いわゆる業務の見える化及びその問題化をそれ浮き彫りにしていくこうということです。ですので、いろいろなことに自分は役立てることができるのではないかというふうに思っております。

例えば、この業務はやはり学校が単純にやる必要はない、でこの業務は教頭がやるべきではなくて、この先生に任せればいいのではないかというふうな方向転換をしたり、いろいろなことが考えられるかなというふうに思っております。

シャドーイング調査についても、奈良県の生駒市というところがあるのですが、ここが先駆的にやっているところなのですが、自分もいろいろここから情報は提供いただいております。ですので、先生方にいただいたアンケートをもとに、このシャドーイング調査をして、働き方改革に少しでも反映できればな、というふうに思っております。

エンゲージメントは、どちらかというと組織の問題化を可視化していくというところなので、なかなかこの学校現場でこれがどれだけ応用できるかというと、少し見えない部分もあるのですが、やはり組織でこれから対応していかなくてはいけないわけですから、その組織について、「こういうふうな体制でやっていければいいのではないか」、「いや、こっちはこういうふうな体制でやっていけばいいのではないか」、というふうなところに何とかつなげていきたいなというふうには考えております。

以上でございます。

藤代市長 はい。では、豊田委員。  
(議長)

豊田教育長職務代理者 ありがとうございます。  
そうしましたら、もう1点伺いたいのですが、17ページをご覧いただきたいと思います。

1の人員体制の強化ということで、先ほどの増田先生のお話とも重複するかと思うのですが、人材を計画的かつ柔軟に確保できる仕組みという文言が書かれておりますが、先ほどご説明で人材バンクの利用というものがございましたが、これも同じようなことがいえるのでしょうか。

具体的に、こういったものを利用していくことによろしいのでしょうか、その確認です。

藤代市長 これは、加藤先生ですか。  
(議長)

学務課長 どうも、ありがとうございます。  
今、始めましたこの人材バンクもその1つだというふうに考えております。  
ただし、なかなかやはり人材バンクの方もどこかではやはり難しい状況が来るかなというふうに思いますので、それを想定して、さらに人材確保の仕組みは整えていかなければいけないというふうに考えております。  
以上でございます。

- 豊田教育長職務代理者 はい。ありがとうございます。  
議長続けてよろしいですか。
- 藤代市長 (議長) もちろんです。
- 豊田教育長職務代理者 そうしましたら、18ページをお願いしたいと思います。  
業務・勤務時間の適正化ということで、右側の方、四角の中ですが、クラウド化し業務の効率化、教育の質の向上につなげます、というような説明が書かれております。これは具体的にどういった業務から優先して進めていかれるのか、ということをお聞きしたいと思います。
- 藤代市長 (議長) これは、松本先生、お願いします。
- 教育DX専門官 お答えします。  
校務のクラウド化については、まず日々の事務負担が大きく、効果がすぐ出る領域から優先して取り組みたいと思っております。  
具体的には、こどもたちの出欠状況であるとか、保健、成績、あと保護者様との連絡など、現在は学校ごとに作業が分散して、紙やパソコンでの再入力が多い業務です。  
これらを共通のクラウド基盤に統合することで、教職員の入力作業を大幅に減らし、その分を授業準備であるとか、児童生徒への支援に振り分けられるように体制を整えて参ります。  
以上でございます。
- 豊田教育長職務代理者 はい、ありがとうございました。  
続きましてもう1点、よろしいですか。
- 藤代市長 (議長) もちろん、どうぞ。
- 豊田教育長職務代理者 まず、20ページの教職員の働き方改革のためにというところでございますけれども、学校以外が担うべき業務の中で、学校徴収金についてでございますけれども、この公会計化というのは具体的にどういった手法なのでしょうか、教えていただきたいと思います。
- 藤代市長 (議長) これは、どうしましょうか。  
加藤先生が大分頭抱えていますけれど、教育総務とかがいいのですかね。  
はい。では加藤先生お願いします。

学務課長

あくまでも、これは国が示したものですので、わからない部分もあるのですが、公会計化と聞くと多分、教育委員会がすべて担うような形を想定しているのではないかなというふうに思います。今、各学校さんがやっているので、それを教育委員会が担うような形にしなさいということかなというふうに思います。

ただし、そこには業務委託的なところも入ってくるかなというふうには思っておりますが。

豊田教育長職  
務代理者

はい、ありがとうございます。

できれば、この学校の徴収金については、いろいろな手法で徴収できるような形を今後検討していっていただければいいかと思います。

例えば、コンビニで振り込めるとか引き落としができるとか、そういうふうなことが行われると、その校務自体も軽減されるのではないかと思うのですが、国がまだ具体的なことは示されてないということですけれども、そういうことを検討しながら、保護者と学校側も双赢になるような、そういう制度というか、そういうものを作っていただければと思います。

ありがとうございました。

藤代市長  
(議長)

他にどうでしょう。

はい、屋敷委員。どうぞお願ひします。

屋敷委員

はい。お願ひします。

21ページの方をご覧ください。

実現に向けたロードマップ、施策の3番ですか。

働きやすい環境整備、専門性の向上。1つ目の心身の健康とウェルビーイングの推進、特に先生方の環境を整えていただいたら、先生方の働き方も、より一層よくなるのかなと感じます。

また、教職員の専門性向上、研修サポートプログラム実施となっていますが、実施内容をお伺いできればと思います。

また、研修会を夏休み等に今年、自分も参加させていただきましたが、夏休みに多数の研修会があるようですが、先生方の休暇の取得とかに影響がないような配慮をしていただけたら、ありがたいなと思います。

よろしくお願ひします。

藤代市長  
(議長)

はい、では岡田先生お願ひします。

指導課長

指導課の岡田です。こちらの研修サポートプログラムにつきましては、教職員自身が専門性を向上させるための、主体的な研修スタイルというふうに私たちはイメージしております。

現状、研修会に参加する場合には、必ずしも主体的とは限らないことも

ございます。特に小学校では、「私は本当は社会科をもっと勉強したいのだけれども、学校で体育主任だから体育の研修会に参加しなきやいけない」とか、「なかなか社会科の研修には参加できないんだ」というような場合もやはりあるのです。

そうした事もありますし、参加したい研修会を、例えば自分で探して「この研修行きたいな」というふうに思ったときにも、県の方から配当される旅費というものがございまして、もちろん限りがあるのです。

ですので、「ちょっと旅費が足りなくてそこには行けないよ、行かせられないよ」というようなことも実はあるのです。こうした現状が現場にあるというところを少しでも改善したいなということで、自分が行きたいなと思った研修、専門性を向上させたいな、だからこの研修に行きたいというところを、自分で調査をして、計画をして、実行、報告というような、そういう職員自らが自分の研修先を探し、実行できるような、そういうところの経済的な支援を行っていきたいということが、今申し上げた研修サポートというところでございます。

以上です。

藤代市長  
(議長)

よろしいですか。はい。

関連したところなので、まず、増田先生。

増田委員

同じく21ページの実現に向けたロードマップの中ですね、教育委員会の学校支援体制強化についてお聞きしたいことがあります。

17ページでも示されていた指導主事が、専門的な助言や支援に専念できる体制を整えるということについて、現在も、教育委員会の指導主事さんたちは全力投球で今できる範囲で精一杯学校支援にあたってくださっていると思います。それでも、学校現場の方からはもっと現場を見に来て欲しいとか、もう少し寄り添って欲しいというような声も聞かれます。

教育委員会の学校支援体制強化で今後取り組んでいく事業で示されている体制の強化、それから指導主事業務適正化とは、どのような取り組みになるものなのか、その内容を教えていただきたいと思います。

よろしくお願ひします。

藤代市長  
(議長)

これも、加藤先生ですか。

学務課長

はい。

こここの強化をするにあたって、まず指導主事の業務の適正化ということは、必要であろうと、ここをやらずしてこの支援の体制はできないだろうというふうに考えております。

先ほど教育長が説明した中にもあったかというふうに思うのですが、やはりその本来指導主事が担う必要がない業務を今やっている事実、実情があります。いわゆる契約事務、バスだったりとかそういう契約業務であつ

たりとか、そういうものがあります。そういうものではなく、やはり本来指導主事であれば、指導課であれば学びの変革に対して、学校を支援していかなくてはいけないだろうと。

あとは、いわゆる特別支援教育についても、もっと支援していく体制を作っていく。それから、生徒指導上の問題についても、もっと支援していくというふうな、必要があるだろうというわけです。

そういうものも現状とこれから、どうしていくかというものを見える化を図っていって、業務の明確化ということなのかもしれません、そういうことを明確にしていって、この体制の強化を図っていきたいというふうに考えております。

まだ本格的にこの辺りについては、少し協議がなされていない部分があるので、今後、十分協議をしていきたいというふうに考えております。

藤代市長  
(議長)

では長尾委員、どうぞお願いします。

長尾委員

ありがとうございます。

今後、印西市では未来を切り開く世界モデルの学びを目指すために、9年間を通じて一貫した英語学習を、全小学校で実施するというふうに記載されていますが、その中でオンライン交流というものがあるのですが、これは具体的にどのような内容で、どのような頻度でされていくご予定があるのかお伺いしたいです。

藤代市長  
(議長)

はい、岡田先生。

指導課長

指導課の岡田です。

オンライン国際交流事業の取り組みについてご説明をします。

まず令和7年度、今年度ですが、すべての中学校で、ワールドクラスマートという、英会話アプリを無償トライアル導入させていただいています。

その英会話アプリにはオンラインによる国際交流の機会というものがセットになっている、パッケージとしてセットになっているのです。

今年度は中学3年生が年1回の交流を行っています。私が見学に行ったときには、インドネシアの中学生の子たちと交流をしていました。また、別の学校では、マレーシアの学校の同年代の子たちと交流していました。

こちら、今先ほど冒頭に申し上げましたが、今年度については無償トライアル導入ということで、今後、本格導入を実現していきたいと考えていますが、交流の回数については、年1回を想定しております。

以上です。

長尾委員

はい。ありがとうございます。

1つの案としてなのですが、もしできれば、このオンライン交流が年1回ということであれば、やはり目的が国際理解ということで、必ずしもこれはオンラインだけでなくてもいいのかなと。

というのは、今はY o u T u b e であったり、自分でそういう機会を作ったり、あとはこの事業だったりとかで、英語だったりを学ぶ機会はあるわけで、もしできればその地域に住んでいる、外国籍のある方を学校に講師としてお呼びして、その方が学校に来て、「私の国の学校はこうなんだよ」とか、「私の国は日本でやっているこの行事はこういうふうにするんだよ」とか、「こういうものを食べてる」とか、「日本に来てこういう違いがある」とか、「日本でこういうことに困ってる」とかそういうリアルな話を聞かせていただいて、そういうことによって、こどもたちはリアルなこのコミュニケーションをとる機会ができるのと、あとは先ほど教育長がおっしゃっていた、生徒たちが自分で問い合わせ立てる、そういうことにも繋がるのではないかなど。

この地域に住む外国籍の方と関わりを持つ機会ができれば、今後、どんどん印西市もグローバル化していくので、一緒にこの町をつくっていく、仲間として繋がり合ったり、そういうことにも繋がっていくのではないかなどというふうに思います。

以上です。

藤代市長  
(議長)

ありがとうございます。  
岡田先生どうぞ。

指導課長

ご意見ありがとうございます。  
実はそうした学習も行っておりまして、そのオンライン交流とは別に、実際に地域の方に学校に来ていただいて、その国の文化や習慣、食べ物等を特に国際交流協会の方々がいろいろマネジメントしてくださるので、すべての学校でやっているかっていうと、そうとは限りませんが、実際そうした国際交流協会の方に依頼をして、そういう事業も行われています。今度、来月本塾小学校でも行います。

以上です。

藤代市長  
(議長)

はい、では教育長からも。

渡邊教育長

付け足しで、今本当に長尾委員おっしゃられたことは、プロジェクト3の、地域とともに育むというところにも繋がってくると思いますし、今、岡田課長からあったように実際にいくつかの例を積み上げてきていますので、やはり、それを拡大していくということをいろいろな学校でやっていくということはとても大事だと思います。

また、県が主体でやってくれているのですけれども、外国からの修学旅行で訪れている中学生・高校生の子たちを受け入れるというような授業が

あるのですけれど、1日なのですけれども。そういう機会も手挙げ制なのですけれども、積極的に手を挙げて、今年度は3校でしたか、受け入れて交流を進めています。

そんな機会もさらに大事にしていきたいと思います。

藤代市長  
(議長)

ありがとうございます。他はよろしいですか。  
豊田委員どうぞ。

豊田教育長職務代理者

前後してしまいますけれども、26ページのS T E A M教育について教えていただきたいのですが、S T E A M教育を進める際に職員の方が新たな専門的スキルが求められてくると思うのですが、そういう教員の指導力の格差の問題をどのように解決していかれるのかということを教えていただきたいと思います。

藤代市長  
(議長)

岡田先生、お願いします。

指導課長

はい。ありがとうございます。

S T E A M教育につきましては、学校の中、あるいは学校の外を問わず、そういう研修の機会を確保すること、あるいは市としても、そういう機会を提供することが大切になってくると思います。そういう機会に専門的な知識とか、あるいは指導方法を高めることが必要だと考えます。

また、学校の中では、教員の間で協力を促進して、いろいろな知識であったり経験であったり、あるいは実践力をみんなで共有していく、そういう取り組みが大事になってくるかと思います。

その他に市教委の支援としましては、I C T支援員、各学校に配置しています。支援員の方の事業支援、あるいは、何か現場から問い合わせ等があった場合には、指導主事を派遣して、その問題と一緒に考える、ということをやっていきたいなというふうに考えております。

以上です。

豊田教育長職務代理者

はい。どうもありがとうございました。

バックアップの方よろしくお願ひしたいと思います。

もう1点なのですけれども、25ページに戻りまして、この各論でちょっと伺うことではないと思うのですが、ピックアップ事業の中で、(仮称)東の原義務教育学校の整備がうたわれておりますけれども、今後、他にもこの義務教育学校や小中一貫校というものは積極的に進められていくものなのかどうかということを参考までに教えていただければと思います。

藤代市長  
(議長)

これは、教育長からですか。

渡邊教育長

はい。ありがとうございます。

今のところ、市のこれからのことというのは、この義務教育学校を進めていくかどうかという議論はまだ本格的には始まっておりません。

ですけども、1つの選択肢としてはありますので、これからその点も踏まえて印西市的小中学校のあり方については検討をして、議論していきたいと思っております。

藤代市長  
(議長)

はい。ありがとうございます。

他にいかがでしょうか。

長尾委員。

長尾委員

ありがとうございます。

30ページにインクルーシブ教育システムの充実について記載があるのですが、市としてはインクルーシブ教育、今後はどのような形で、具体的にどのようなことをしていくのか、何か決まっていることなどありましたら教えていただきたいです。

藤代市長  
(議長)

はい。岡田先生お願いします。

指導課長

はい。ありがとうございます。指導課岡田です。

このインクルーシブ教育システムにつきましては、やはり専門的な知識あるいは感覚に合わせて実践力というのを育成する必要があると思います。

先ほどのSTEAM教育とも研修といった部分では同じようなお答えになってしまいますが、市が主催しております研修会等でこのインクルーシブについて、インクルーシブ教育の理念でしたり、あるいは日頃の教科指導、生徒指導、学級経営などで、このインクルーシブの考え方ということがどのように生かせるのかという実践的な研修も必要かなと思っております。

以上です。

藤代市長  
(議長)

はい。ありがとうございます。

他にいかがでしょうか。

はい。屋敷委員、お願いします。

屋敷委員

よろしくお願いします。

プロジェクト03に入ります。

33ページなのですが、課題の中で、学校と地域が連携してこどもたちを育む取り組みをさらに進める必要性があるとなっていますが、学校運営協議会、地域の意見、これをこのことに対してどのように反映させていく

のか、お伺いしたいと思います。

藤代市長 はい、では中嶋課長の方から。  
(議長)

生涯学習課長 生涯学習課、中嶋です。よろしくお願ひします。

今年度設置しました、印西中学校区を例に申し上げますと、協議会の方針としまして、地域の方々と連携しながら、学校運営に関する協議・熟議を行い、こどもたちが学びやすく、先生方が教育に専念しやすい環境づくりを進めることとしております。また、協議事項の1つとしまして、学校運営、またそのために必要な支援について、熟議を重ねているところでございます。また、その結果、学校と地域がそれぞれ意見を出し合いまして、教育のビジョンや方向性の共有が図られ、こどもたちの学びや育ちとともに支える協働の土台が形成されているものと考えております。

協議会で出ております、具体的な支援としましては、登下校時の安全確保や見守り活動、学校環境の整備、読み聞かせ、学校行事への地域の参加などでございまして、地域からこれらの協力を得ることで地域とともにある学校づくりを進めていくことができるものと考えております。

以上でございます。

屋敷委員 はい。ありがとうございます。

これから先、また学校運営協議会を数多くの学校で展開されていくと思いますが、地域の方から多くの意見をいただいて、それは学校がより良くなるように進めていっていただけたらいいと思います。

ありがとうございます。

続けてよろしいですか。

藤代市長 はい、もちろんです。  
(議長)

屋敷委員 35ページになります。

アフタースクールについてなのですが、今後アフタースクールの導入を進められていくと挙げられていますが、アフタースクールというものはどのような内容のものか、説明をいただければと思います。

また、近くの自治体、また先進自治体の取り組み事例があるようでしたら紹介いただければと思います。

藤代市長 生涯学習課長の方からお願ひします。  
(議長)

生涯学習課長 アフタースクールにつきましては、小学校の放課後の時間に、学校内におきまして、保護者の就労状況等にかかわらず、希望する児童に安全安心

な居場所と多様な体験活動の機会を提供することで、子どもの居場所を確保するとともに、学びや体験等の機会格差をなくすことを目的として、実施に向け準備を進めている事業でございます。

なお、運営に当たりましては、学童クラブ及び放課後こども教室と連携して実施することを想定しております。

具体的な内容でございますけれども、事前登録制とする予定ですが、希望する児童に対しまして、下校時から午後5時までの間、子どもの居場所を提供するとともに、各種体験等ができる場を設けるものでございます。

また、この時間帯につきましては、学童の登録者も参加可能とする方針でございます。

また、週に1回程度、体験プログラムを用意しまして、様々な体験ができる機会を設けていく予定でございまして、学童クラブや放課後こども教室とも連携を図り、そのノウハウ等を活用していく方針でございます。

また、これとは別に、継続プログラムといったしまして、学習やスポーツ等の習い事に相当するメニューも需要に応じて設定していきたいと考えております。これによりまして通塾にかかる保護者の送迎の負担軽減の一助にも繋がると考えているところでございます。

アフタースクールの終了時間は、基本的には1人帰りができる時間までとしまして、通常は午後5時、冬場は4時半までとする予定でございます。アフタースクール終了後につきましては、学童クラブ登録者につきましては学童クラブにおきまして、保護者の迎えがあるまでお預かりする形となります。

令和8年度に滝野小と牧の原小におきまして先行導入を予定しております、順次拡大して参りたいと考えております。

あと他市での取り組み状況でございますけれども、県内で申し上げますと、千葉市が令和2年度から実施しております、また柏市では令和8年度から実施する予定と伺っております。

以上でございます。

藤代市長  
(議長) よろしいですか。  
他にもしあれば。

屋敷委員 38ページの方をご覧ください。  
部活動についてです。

今、地域移行が始まりまして、順次地域移行を進めていかれるようですが、先生方のかかわり合いというのはどのようになっていくのか教えてください。

藤代市長  
(議長) はい、それでは岡田先生お願いします。

指導課長

指導課の岡田です。

現在行っています部活動の地域移行は、休日を対象としたものになっています。従って平日の部活動につきましては、これまで同様、学校教職員が指導に当たっています。

さらには、現在軟式野球が3クラブ、女子バレーボールクラブが6クラブ、計9クラブ、先行実施して、9月から3ヶ月経っておりますが、その9クラブの指導者、全部で20名いるうちの9名につきましては、学校の教職員で兼職兼業届そういった申請を市の方に出して、指導に当たっているというのが現状です。

以上でございます。

屋敷委員

はい。ありがとうございます。

最終的には、実際クラブ化していくとなると今度、例えば活動費であり、保険代とかそういうことも考えて、月謝のような形が発生してくると思うのですけれど、できればスポーツを取り組む生徒さんたちが積極的にやっていただきたいために、なるべく印西市なり教育委員会なりで、お金に対して補助とかしてあげていただければ、どんどん積極的にクラブ化も進んでいくのかなと考えます。

ぜひ、よろしくお願ひします。

藤代市長  
(議長)

よろしいですか。  
では、岡田先生。

指導課長

はい。指導課の岡田です。

現在、先行実施しています、軟式野球クラブ、女子バレーボールクラブについては、年会費や月会費などは、徴取はしておりません。

来年度すべてのクラブが加わって、本格実施を迎える際には、年会費、月会費等については、家庭の方で負担していただくことは想定しております。

また、その負担について、市の方での補助等についても、ご家庭の負担を減らせるような工夫が何かできないか、他の自治体等がどんな取り組みをしているのかということも、調査研究しているところです。

以上です。

藤代市長  
(議長)

はい。ありがとうございます。  
他によろしいですか。  
豊田委員、どうぞ。

豊田教育長職務代理者

それでは、最後に市長にお願いなのですが、この教育ビジョンを実現するには、市の財政負担ですとか、人員的な負担がかなり大きいのではないかと思います。

もちろん予算措置等が必要になりますので、議会の皆様のご理解等もも

ちろん必要なところでございますけれども、このビジョンを実現させるにあたって、組織としてのバックアップ体制ですとか、そういうものは、今まで以上のものと考えてよろしいでしょうか。

それをお願いですけれども、よろしくお願ひいたします。

藤代市長  
(議長)

そうですね、予算のところは、最後いろいろと調整する中で、お金をつけるかつけないかという話なので、比較的やろうと思ったらやれるのだと思うのです。

むしろ、考えなければいけないのは、この政策をしっかりと具体化していくって進めていくって、さらに言うと進めた上での課題をさらに踏まえて、対応・改善していくという、このサイクルをうまく回せるような体制をどう作るかというところがすごく大事だと思っています。

これは市長部局もそうですけれども、教育委員会にしても、今回、正直な話を言うと担当課長レベル以上の皆様が相当程度この議論を主導いただいたのです。

なぜかというと、その担当の職員の皆様は、指導主事の先生方も含めですけれど、皆様忙しいので、こういった新しいことを取り組むための時間が取れないということが現実的にあったわけです。

さらに言うと、では実際、こういった政策を作ったときに、誰がその全体の進行管理をしていくのかとかということも、なかなか体制として整っていないというところは、これは別にいい悪いではなくて、今までというのはあくまでも既存の体制の中で、今のこと日々しっかりと進めていく、改善をしていくというところが主の組織だったので、そういった新しいことをやっていくためのプロジェクトマネジメントができる体制という意味では、さらに1歩2歩体制を強化していく必要があるというのは、この1年間非常に感じたところです。

今年度については、一旦ワーキンググループという形で、実は相当程度、野崎副市長の方に入っていたりして、野崎副市長にPMOと言ふ方をしますけれども、プロジェクトマネジメントオフィスですね、事務局のリーダーのような形で全体の議論を取りまとめていただいたというのがありました。

それから来年度以降はやはり教育委員会の中で、それができるような体制にしていくということが大事だと思っていますので、そういう中で少し組織を教育委員会の中で改変をされるということを伺っていますので、それに合わせて、少し外部人材の方というのですか、プロジェクトをしっかりと回していくような、さっきシャドーイングの話もありましたけれども、現場に伴走もできるような、そうした人材の採用であるとか、また市役所の中でもそういったことが得意な人間、さらに教育に思いを持っている人間もいますので、そういった人間を新しく配置をさせていただくあるとか、そういったことをする中でなるべく、今の体制の中でしっかりと本件を進めていくように、先生方、本当に真面目な方が多いので、やはり、やってくださるのですけれど、これが続くというのはあまり健全では

ないと私も思いますので、そこはしっかりと人員の配置も含めて、我々としてできることは進めていきたいと思っているところであります。

豊田教育長職務代理者

はい。どうもありがとうございました。

藤代市長  
(議長)

他によろしいですか。

最後に私と教育長とそれぞれ一言ずつ少しお話しさせていただいて、会議を閉じたいと思います。

この後のプロセスとしては教育ビジョンについては、パブコメですか、パブリックコメントに付させていただいて、市民の皆様に広く意見をちょうだいすることになっていこうかと思います。

それを踏まえてしっかりとより良いものにしていくことが1つ。

また、今はこういった、今日お見せしたようなフォーマットになっていますけれども、これももう少し見やすいようなビジュアルのものに変えられないかということで今、お願いをしているところであります。

また、場合によっては、市民の皆様がより手に取りやすいような、ビジョンで字が多くて少し長めのものというよりは、その概要版なのか何なのか、市民の皆様にもぱっと見てご理解いただけるような、そうしたものも、このビジョンの中で作っていきたいということも思っております。

あくまでも計画は計画であって、実際にこれを実行に移して現実を変えていかない限りにおいては、やはり教育の現場は良くなっていかないわけです。

でも常々、今年の初めのころに、加藤先生という方がいらっしゃるのですが、その方にも言われたのが、絵に描いた餅みたいな計画を作ってしまうと、現場はやれないので、意味のないものは作らないでくれということも言われたわけです。

これは結構やはり大事なことで、計画って、多分計画ではなくて、しっかりと目的があって、現場を変えるためにあるものなので、ここからが本番だと思いますので、我々もしっかりとこれを進めていけるような体制づくりを市長部局としても全力で教育委員会の皆様をサポートしていきたいと思っていますし、また私としては、できれば来年度に入ってから、各学校を回らせていただいて、校長先生・教頭先生もなのですが、教育長と一緒に、現場の先生方といろいろとお話をしたいなと思っています。

やはり最終的には、教頭先生・校長先生そして現場の先生方が前向きにこの計画のもとでやっていこう、ビジョンのもとでやっていこうという思いを共有していただけない限りにおいては、なかなかこれを実現するのは難しいのかなと思いますので、そこは今回アンケートと一部の先生方との対話というところが主でしたけれども、来年度はそのようなこともやっていこうかなと思っています。

ただ3月末は一番先生方が忙しいのですよね。そんなことも加藤先生から教わりましたので、3月末は避けて、年度が明けたところで、順次そん

なこともしていけるといいのかな、ということを思っているところです。

いずれにしても本当に今回、多くの方のご協力のもとでここまでたどり着けたことについては、本当に私としてもありがたいと思いますし、ハズオンとハズオフという言葉があるのです。オンとオフという、手をしっかりと入れていく、離すという、これはマネジメントの用語なのですけれども、やはり最初はある程度私が方向性を示したりとか、論点を示したりとか、進め方を言うほうがいいのではないかということをお願いするような場合というのが、やはり新しいものを進めるときというのは多いわけです。当然ながら今までと違うことをやるわけなので、市長が何を考えているのかという話になるわけですけれども。

この教育ビジョンについては、あるタイミングから私の手を離れていくて職員の皆様が、教育委員会の皆様が主体的にどんどんどんどんと考えて行かれていったフェーズにある瞬間からこうなっていったということが、非常に私としては感慨深いものがありますし、今日も横でやはり教育長の言葉を聞いていて、非常に実は今回、担当課長が説明するかという案もあったのですけれど。やはり最後は教育長だろうということで、教育長にお願いをしたという背景はあったのですが、やはり教育長の言葉は何か刺さりますよね。心に刺さるものがあって、非常にこれからこの印西市の教育というものが、しっかりと前に進んでいくのだろうなということを感じながらこの場所で、教育長のお話を伺っていたというところです。

ですので、引き続き教育委員の皆様も、いろいろと当初聞いていた話と違うじゃないかというような、こんなに忙しいとは思わなかったと委員の方に言われましたけれども。そのようなところは本当に申し訳ないなと思っているのですが、なるべく教育委員の皆様の働き方改革も意識をしながら、引き続き皆様としっかりと議論をしながら、市の教育を前に進めていきたいと思いますので、よろしくお願ひ申し上げます。

少し長くなりましたが、私からは以上になりますので、最後に今日の会の締めの言葉を教育長の方から。

渡邊教育長

もう何か市長が締めていただいたような、話しづらいですけれども。

とにかく、今このビジョンが本当にできつつあります。

先ほど申し上げましたように作って終わりではなくて、やはりこのビジョンに基づいて実際に、学校と我々とで手を取り合って、また市長部局のお力も借りながら、印西のこどもたちのために、よりよい学びを作っていく。学校が楽しいよと、授業が楽しい。そういうふうにこどもたちが思ってもらえるようにしていく。そのことが、保護者の方々の安心にも繋がるでしょうし、やはりそういった学校を作っていくたい。

さらに、こんなことをやっているのか、と地域の方々にお示しすることで、何か手伝うことはあるかなと、そんなお力もお借りできるような、そのような良い相乗効果といいますか、そのような体制がつくれたらいいなと思っています。これを見た、他市で働いている教員の方々が印西の学校で働きたいな、そんなふうに思っていただけたら、また大変嬉しいなと思

っています。

ぜひ、5年間、1年1年、1つ1つじっくり取り組んでいきたいなと想  
いを新たにしたところです。

本日はありがとうございました。

藤代市長 はいそれでは、以上で議題3、こちらも終了とさせていただきますの  
(議長) で、進行を事務局の方にお返しをしたいと思います。

企画政策課長 ありがとうございました。  
(進行) なお本日の会議に関するアンケートにご協力をお願ひいたします。

Y o u T u b e 配信をご覧の皆様は、概要欄にリンクがございますの  
で、そちらからご回答ください。よろしくお願ひいたします。

それでは以上をもちまして、令和7年度第9回印西市総合教育会議を閉  
会いたします。

長時間にわたりお疲れ様でした。

(午後4時25分)

印西市総合教育会議設置要綱第8条の規定により、上記会議録は、事実と相違ないことを  
ここに承認する。

令和8年1月20日 印西市教育委員会委員 豊田 光弘